

《第 512 回(2024 年 4 月 11 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:9 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『世界を動かした塩の物語』 マーク・カーランスキー/文, S.D.シンドラー/絵, 遠藤 育枝/訳 BL 出版

4月の課題図書は、『世界を動かした塩の物語』でした。塩は人間や動物になくてはならないもの。体に必要なだけでなく、保存食を作るなど、文明の発展にも寄与してきました。今では身近な塩をめぐる国の繁栄や争いなど、塩を通して見える世界の歴史が描かれています。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●絵本のような、図鑑のような、いい本。学校で習った世界史の裏側を、塩を通して見ているようだった。各ページにあるコラムが、ミニ知識という感じ。塩からできた英語があることや、紫の染料になることなど知らないことがたくさんあった。世界中に塩の道があり、土佐塩の道もある。身近なものに歴史があることがわかり、楽しかった。

●塩はどこにでもあるものと思っていたが、違った。人間の需要によって世界は動き、世界の文明は塩からできていると感じた。「塩梅」「敵に塩を送る」という言葉や、草枯らし、お清めなど、自分もいろいろな場面で塩を使っている。今は簡単に手に入るものだが、大切にしたいと思った。

●表紙の絵が楽しい。ミイラやガンジーのいるこの絵を見て、読む楽しみが湧いた。作者がノンフィクションの書き手ということで、科学的な知識も載っていて、なるほどと思うところがたくさんあった。塩の観点から歴史を見るということが、発見だった。話の順番が時系列ではないが、最後の年表を見ながら再度読み返すとよくわかる。

●油田や天然ガスも塩がなかったら見つからなかったのかと思うと、塩の副産物がすごい。塩ひとつで戦争を起こすなんて思ったが、今も油田ひとつで戦争が起こっている。たかが塩、されど塩。サイドストーリーで歴史がよくわかった。子どもだけでなく大人も読まないともったいない。イラストがわかりやすく、絵だけ見ても楽しい。

●歴史の深層読みができる本。高知ではタケノコやイタドリの保存にも塩を使う。染め物の色止めにもなる塩は、生活と結びついている。イラストがリアルで細部まで描かれていて、子どもには、このイラストが助けになると思う。作者のほかの作品も読んでみたくなった。

●最初の岩塩の話が面白かった。ポーランドの岩塩鉱のことも知らなかった。塩づけの抗夫の話など、塩づけで長持ちしたのは食物だけではなくたことにびっくりした。ガンジーの塩の行進も、塩が交渉の手段になるほど大切なものだったから。塩に対する認識が変わったように思うが、自分には減塩生活が必要。

●中学生の息子と読んだ。地下から塩を取っていて爆発が起こったところや、ミイラの塩づけのところなどに興味を示していた。小学生に限らず、中学生にもおすすめできる本。最後にある「塩から見た世界史」の年表がよかった。

●ノンフィクションは読み慣れていなかったが、イラストがあり理解しやすかった。ぎょっとするようなエピソードもあったが、していることは同じでも状況と時代によって印象が変わると思った。視野を広げることができて、良かった。

●塩って面白いと思った。人間にとって必要不可欠なものだから、塩を多く持っている者が権力を持つ。今は当たり前にある塩がたどってきた物語を、子どもたちにも知って欲しい。また、世界はいろいろな観点で見ることができるといことも知って欲しいと思う本だった。

次回 5月9日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『鬼の橋』伊藤 遊/作, 太田 大八/画 福音館書店

※申込み・参加費は不要です。